



小池 光選

わが余生いわば負け暮を投げもせずただたんと打つ様に似る 岡谷市 中山 源司

【評】人生晩年の境地をこんな風に響えてみた。暮はすでに勝敗決して、中押し負けが動かせないものとなった。しかしなお投げないで打つ。最後まで打つ。立派だ。

「こどもの日」ふと思ひ立ち半世紀ぶりに通った保育園訪う 所沢市 青木 照子

【評】むかし通った学校を懐かしむなら普通だが、保育園まで郷愁が及ぶ人はめずらしい。子どもたちが遊ぶ声、ゆれるブランコ、五十年たっても昨日のこのように思ひ出す。縁有りて五十一年共に生き洗濯物を二人して干す 筑西市 笠倉 等

【評】金婚式も過ぎた老夫婦が、二人して洗濯物を干すというところが具体的で、かつ稀な光景である。この上なく仲良しなのだ。

「万博へ行つてみるかね」妻に問ふ老いて叶はぬこと知りつつ 多摩市 飯島 博幸

またひとり友逝きませり初夏の空こんなにも爽やかなのに 福山市 金尾 洵子

ザッザッと彫刻刀で彫りますむ白黒二色の春岩手山 名古屋市 屋河 共

共に学びし友より二十年目の電話「第二歌集を送って良いか」 西条市 山本美知子

バイカル湖の重い真水の底に消えた歌声喫茶のロシア民謡 横浜市 森 秀人

神社へと深々下げるその姿勢二十歳の孫よ善き人であれ 東京都 神通美代

ある日ふと途中下車して塩田の跡地に立つて潮風を吸う 高砂市 今井 慎一

栗木 京子選

新緑を分けて落ち来る滝の水旅の途中の輝く遊戯 岐阜市 後藤 進

【評】新緑の木々の間を抜けて滝となる水。その後も谷をくだって流れてゆく。その動きを「旅」と捉え、さらに滝のしぶきを「輝く遊戯」と表したことで生動感が生まれた。

萎ゆる足とめれば聞こゆるきんぼうげの声すかんぽのこゑ 志摩市 近藤きみ子

【評】脚力が衰えたためゆくりと歩いていく。そのお陰で道辺に咲くきんぼうげやすかんぽを心ゆくまで眺めることができる。植物と対話する豊かな時間が描かれている。杖と傘同時に持てぬ雨の日の食卓にぎわす名なしの料理 高槻市 佐々木文子

【評】雨なので買物に行かなかったのだろう。だが家にある食材を工夫して調理するのも楽しい。「名なしの料理」はおいしそう。

武蔵野の森の青葉に風そよぎ浮きたつ我に時鳥の声 朝霞市 橋本 友子

家中で風邪ひきましたとママ言えは補つてこく子は咳をする 別府市 脇 昭子

店に残りしラベンダーなれど我が庭に植つれば雨に映ゆる紫 宇都宮市 阿久津登美江

大正から三代を経たこの庭に初めて白いバラが咲きたり 甲府市 佐野 玄

紫の藤の天井支えいる幹はつねりて大地を掴むものがたりが三百ならんでいるようなシアアの集い三百の顔 白岡市 山下 恵子

あかねさす紫陽花咲きぬ遠き日に触れにし指を思ふ夕暮れ 仙台市 江川 森歩

真岡市 馬場 弘幸

俵 万智選

ここだよと姫は光れど竹取の翁は食後のゲームに夢中 京都市 根来美知代

【評】もしも平安時代にゲームがあったら……翁は姫に会えなかったかも知れない。荒唐無稽に見える想像だが、そんなふうな現代の私たちは、大事なきっかけを見落としていないだろうか。これは問いかけの一首でもある。好きな人とかいるのってさりげなく訊けるはずだ「とか」のおかげで 東京都 葉山 あも

【評】「好きな人はいらるの」だと知りたい気持ちが出すぎてしまふ。曖昧表現としての「とか弁」の効用。言葉の歌としても面白い。

八十の祖父母を連れて短針の速さで回る新宿御苑 大和郡山市 大津 穂波

【評】理屈を言えば、普段五分のところを一时间かけて回るとのこと。「短針の速さ」という表現が優しく秀逸だ。

レジ袋もブックカバーもことわって夜空に刻き出しのビルを出る 豊中市 葉村 直

ぶらんこを並んで漕げば息つかいだんだん揃うアンダンティーノ 大野城市 野分 のわ

新人が退職代行利用して消えることにも慣れたオフィス 金沢市 竹内 一二

急がずに読みたい本は町内のただ一軒の本屋に頼む 東京都 大王グループ

話しても話さなくてもいい距離で父と私は海を見て 姫路市 平手 礼子

花吹雪。招待状を切り刻みひとりで撒いてリハールする 所沢市 里見 脩一

父逝きし齡近づき身に染みる あなたはこんなにかかったのか 埼玉県 谷ヶ崎 均

黒瀬 珂瀾選

ほうじ茶を乳の代わりに含ませてわたしに戻るわたしの乳房 川崎市 吉本 美加

【評】飲んでも飲んでも乳をせがむ赤子に、お茶を吸わせて一休み。吸われ続けて腫れた乳房が解放された一瞬、乳房は自分の体の一部に戻る。子育てに奮闘する母親の姿です。夏を待つ子供のように店先をはみ出しているウエルカムボード 松原市 たりりずむ

【評】通行人にアピールするため、店からはみ出し気味に置かれたボード。それはまるで、夏が待ちきれなくて駆けだしてゆく子供のようだ。街角にてふと感じた、季節の予感。電話にて友の訃報を知りたれどフェイスブックの友は微笑む つくば市 小林 浦波

【評】リアルでは訃報を告げられつつ、ネット上の笑顔を見つめる。更新されぬままのSNSがさらに深く、この世の無常を告げる。梶子のにおいも分らないままに倍速で観る「ドライブ・マイ・カー」 東京都 非鋭理 反

復興の能登の棚田をおもひつつ抽選の米届くを待てり 鹿嶋市 大熊佳世子

すきまなく花をつけたる針 槐よ無縁仏塔のめぐりに香る 久留市 深沢ふさ江

石鹼玉飽きてしまった子にかわり母親が吹く夏の公園 北名古屋市 月城 龍二

菜園の草取り励み汗かけば汗に早くも蚊は飛来せり 薩摩川内市 末永 芳子

椿園に夏日ふえきて敗残の兵のごとくに赤咲きのこゝろ 東京都 浅倉 修

一日の疲れとともにマスク感の顎に残るローカーの夜 小山市 多田木まさのり